

令和8年度校内研修

I 研究主題及び教科

研究主題	人とのかかわりを大切にし、主体的に学び続けるこどもの育成
教科・領域	全教科・全領域

II 主題設定の理由

1. こどもの実態

本校は、単級校であり、幼少期からこども同士の固定化された人間関係や、新たな関係の構築が難しい実態がある。そのため、全校のこどもたちがつながりを深め、多面的な見方ができるよう毎日集団登下校を行ったり、異学年交流活動の場として縦割り班活動を取り入れたりしてきた。

素直に落ち着いて学習に取り組む姿が見られる一方で、トラブルや失敗、難しい課題に直面した際、他者とかかわりながら主体的に解決していく力に課題がある。特に、失敗や間違いに対する抵抗感が強く、学習活動において消極的な態度をとる児童も少なくない。非認知能力アンケートでは「やりぬく力」に関する質問項目の否定的回答が、令和6年度は4.29%だったのに対し、昨年度は6.85%に上昇している。また、協働学習や話し合いの時間を設定しても、交友関係や集団としてのバランスを保とうとするあまり本音が言えず、相手と異なる意見を述べることに臆してしまう傾向がある。さらに、自分と異なる価値観を許容する柔軟さにも弱さが見られ、多様性を認め合いながら学びを深める段階には至っていない。これらの実態から、子どもたちが失敗を恐れず、他者との関わりの中で多様な価値観を認め合いながら、協働的かつ主体的に課題解決に向かう力を育んでいきたいと考える。

2. 昨年度の成果と課題

昨年度は、高学年において引き続き、ICT機器を有効活用した教科における探究的な学習に取り組んだ。また、低学年においても「オクリンクプラス」などを活用した。こどもの実態や発達段階に合わせて、学習課題や学び方などをこども自身が選択し、自己決定できる幅を広げ、教科における探究的な学習に取り組むことができた。今年度は、これらの取り組みを全学年で系統立てた探究的な学習へと発展させていく必要がある。そのためには、活用する学習ツール(スプレッドシート等)や、学びの指標となる「ルーブリック」について教職員間の認識をそろえ、全校体制で統一した取組を進めていかなければならない。これは「粘り強くやり抜く力の育成」にもつながると考える。さらに、今年度の課題である「多様な価値観を認め合い、他者と協働して解決していく力」を育むためには、低学年からの継続的な指導が不可欠である。さまざまな場面で話型を使った対話の練習を積み重ねて意見を伝え合う素地を養うとともに、到達度(◎○△)の確認にとどまらず、他者の良さに気づき、自らの学びを見つめ直すような「ふり返し」の質を高めることで、協働的な学びと自己調整力の基盤を培っていく必要がある。

上記の課題を克服するため、本校では学校教育目標『自分OK! みんなOK!』～ともに挑み、ともに楽しむ子の育成～の実現に向け、研修主題を「人とのかかわりを大切にし、主体的に学び続けるこどもの育成」と設定した。児童が失敗を恐れず、多様な価値観を認め合いながら協働的に課題解決に向かうためには、基礎学力と仲間づくりの基盤の上に、「自己調整力」の育成を図り、自己選択・自己決定できる学習の場を意図的に設定することが不可欠であると考えます。

Ⅲ 研究構想図

【学校教育目標】

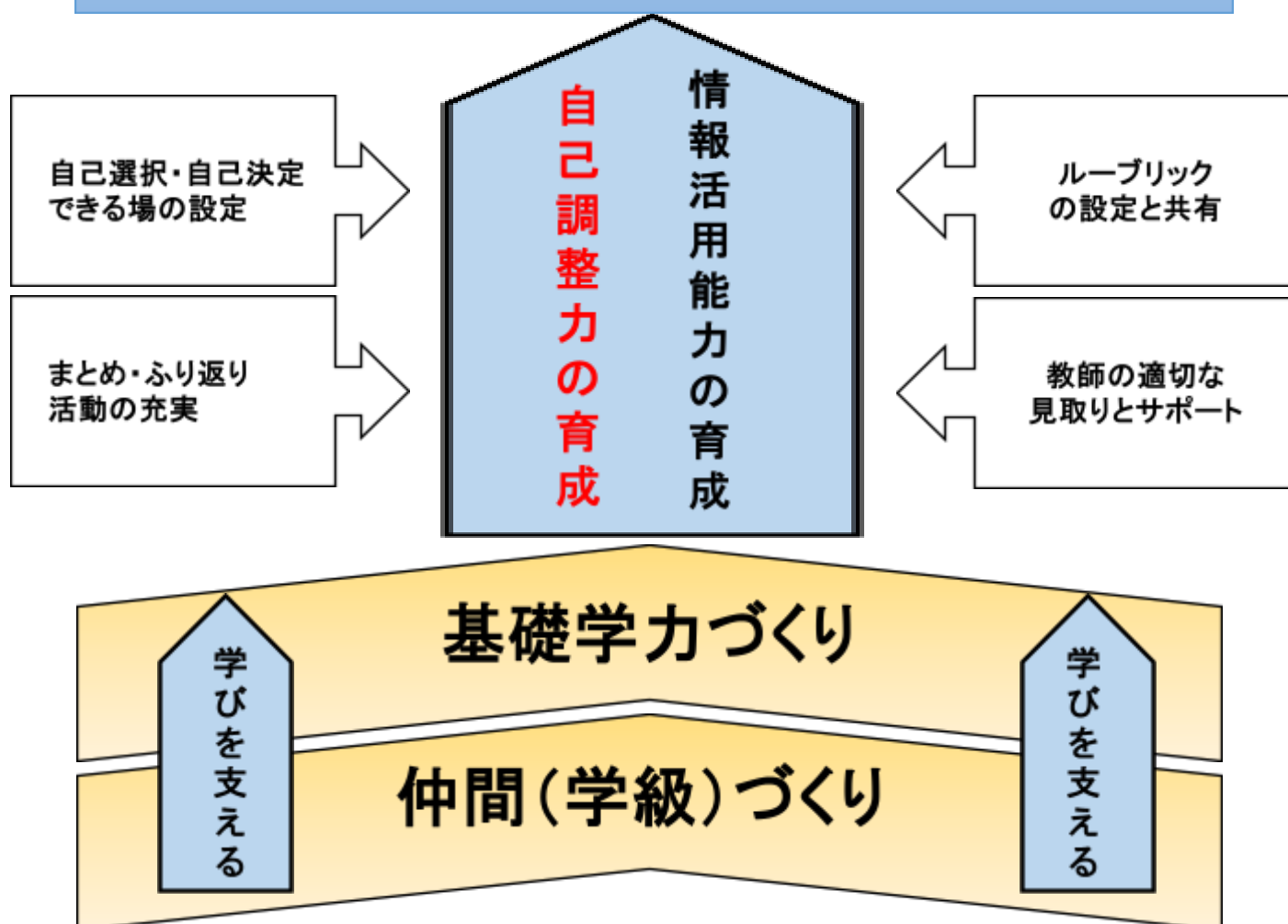
「自分OK！みんなOK！」
ともに挑み、ともに楽しむ子の育成

【めざすこども像】

- 自立: 自分の良さを見つけ、自分の考えを自分の言葉で伝えられる子
- 共生: 仲間の良さを認め、多様な意見を楽しめる子
- 挑戦: 困難なことにも仲間と協力し、粘り強く取り組む子
- 追求: 行事や学習の中にも自ら「おもしろさ」を見出し、学びを深める子

【研修主題】

人とのかかわりを大切にし、主体的に学び続けるこどもの育成



IV 研究内容及び方法

1. 自己調整力・情報活用能力の育成

今年度は「自己調整力」と「情報活用能力」、特に「自己調整力」の育成のために、次の4つの手立てを意識して研修を進めていく。

【自己調整力】

「自分の学びを客観的に捉え、最適化し続ける力」

- 課題の調整（何を）：一斉提示された課題を自分なりに噛み砕き、「今の自分ならここまで挑戦しよう」と、自分の興味やレベルに合わせて問いを再構築する力。
- 過程の調整（いつ・どうやって）：「今はまず資料を読み込む時間が必要だ」「次は仲間と意見を交流しよう」と、探究サイクルを自分の進度に合わせてコントロールする力。
- 形態の調整（誰と）：「ここは一人でじっくり考えたい（個）」「ここで行き詰まったから、アドバイスが欲しい（協働）」と、学びの場を自ら選択・決定する力。

【情報活用能力】

「課題解決のために情報を多角的に収集・整理・分析し、課題とつなげ解決しようとする力」

- 情報の収集・選択：教科書、辞書、Webサイト、インタビュー、既習事項等から、自分の問いに最適な情報をピックアップする力。
- 情報の整理・分析：得られたバラバラの情報を、ベン図やピラミッドチャート等を用いて整理し、自分なりの「結論」や「気づき」を導き出す力。
- 情報の表現・発信：自分の考えや気づき等を、著作権や発信マナーに配慮しながらアウトプットする力。

この2つの力は両輪

- ★自己調整力があるからこそ、「自分には今、この情報が足りない」と気づき、情報活用能力を発揮しようとする。
- ★情報活用能力が高まることで、学びの見通しが立ち、より高度な自己調整が可能になる。

(1) 自己選択・自己決定できる場の設定

- その時間に何を学習するか（めあてや課題）、どうやって学習するか（使うツールやアプリ、場所）、だれと学習するか（相手）を自分で選択し、決定する。
 - ・ 課題の難易度・幅の選択：自分の習熟度に合わせて課題を調整できるようにする。
 - ・ 学習段階の選択：探究のサイクル（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現）
 - ・ 学習形態の選択：「一人でじっくり」「仲間と相談」「先生と確認」といったコーナーを教室内に設け、自由に移動できるようにする。
 - ・ 学習ツールの選択：端末を活用（スライド、動画等）、図書資料、実験器具、ノート、ホワイトボード等、アウトプットや調査の手法を複数用意する。
- 子どもが「自分で選んだ」という感覚をもつことが大切。⇒学習への「責任感」を持つ。
- 「放任」にならない。⇒選択肢のメリット・デメリットを事前に示す。「どうしてその選択をしたのか」を問う。
- 子どもの発達段階や実態、教科や単元に応じて、子どもに委ねる内容や範囲を考え、実践していく。

(2) ルーブリックの設定と共有

- 基本的に3段階で設定する。
- 知識・技能や思考・判断・表現、教科における見方・考え方を意識して設定する。
- 校内でGemを活用する。

Gem例

- 評価基準が明確になることで、先生に頼りすぎずに自分で学びを修正できるようになる。
- 「～ができる」ではなく、「〇〇を使って、～を説明している」等、具体的で達成がイメージしやすい言葉にする。
- 成果物だけでなく、「どのような学び方をしたか」の探究の過程（自己調整）を評価項目に入れる。
- 授業の始まりや、行き詰まったタイミングでルーブリックを再確認する時間を設ける。
- 「先生が採点するための道具」ではなく、「子どもが自分をアップデートするための指標」として機能させる。
- 可能であれば、単元導入時に子どもと一緒に「どんな姿がかっこいいか（S）」を話し合っ作成する。

じしゃくのふしぎ			
じしゃくマスター ミッション	3つの「ヒミツ」を解決する中で「じしゃくのせいしつ」について学び、じしゃくマスターになろう！		
めあて	S	A	B
知る・できる	A+自分の追加じっけんを通して、新たな「じしゃくのせいしつ」を発見し、「まとめキーワード」を使ってまとめることができた。	B+ヒミツに対するじっけんを通して「じしゃくのせいしつ」を発見し、「まとめキーワード」を使ってまとめることができた。	じっけん計画をたてたり、じっけん結果をまとめることができた。
考える・説明する	A+「じしゃくのせいしつ」について、じっけんけっかをくらべて説明することができた。	B+「じしゃくのせいしつ」について、「まとめキーワード」を使って説明することができた。	これまでの経験や、学習したことをもとに「じしゃくのせいしつ」について予想することができた。
すすんで学ぶ	A+クラス全体の学びをより深めるために行動して、学習を進めることができた。	「今日のめあて」を達成するために、「だれと学ぶか」「どのように学ぶか」を考え、学習を進めることができた。	今日の学習で何ができるようになりたいかを考え、「今日のめあて」をきめることができた。

2025年度3年理科「ものと重さ」学習シート

(3) まとめ・ふり返り活動の充実

- 単なる感想で終わらせるのではなく、次の学習のための「作戦」とする。
 - ・自己分析し、次の学習につなげていく（自己調整力）ために重要な活動であるということ意識する。
- 内容知（得た知識や気付き等）と方法知（学び方）に分けて、ふり返る。
- 振り返りの時間を十分に確保する。
- 自分の学びの変容を確認したり、他者参照したりするためにスプレッドシートやオクリンクプラスを使うことが有効。
 - ・対話を通したリフレクション：ペアやグループで「今日、自分（仲間）が自己調整できた場面」を紹介し合う。
 - ・コメント機能の活用。
- フィードバックし、ふり返りの質を高めていく。

(4) 教師の適切な見取りとサポート

- 「教える」から「伴走する」へと役割をシフト：教師のスタンスは「主体的な学びを支援する伴走者」
- 子どもの能力や進捗状況等を把握し、適切なサポートを行う。
 - ・教室内を回り、子供の思考のプロセス（どの資料を選び、どう悩んでいるか）を観察・記録する。
 - ・あえて「教えない」支援：答えを教えるのではなく、「あっちのグループは面白い方法で調べていたよ」「この前の資料と比べてどう？」といった問いを投げかける。
 - ・意図的な指名や共有：優れた自己調整や情報活用の姿を見つけたら、全体に価値づけて紹介する。
- 適切なタイミングで「足場かけ」を行うことで、学びの質を深めることができる。

2. 学びを支える基礎学力づくり

- ・モジュール学習として、読書や読解力(読む・書く、よむYOMUワークシート)、書く活動(作文)などを、各学年に応じて取り組み、基礎学力の定着をはかる。
- ・週末の宿題として、ドリルパークを活用し、既習事項の反復練習を行う。
- ・学期に1回の学習ボランティアを活用したプリント学習
- ・家庭学習強化週間の取組
- ・高学年における、家庭学習の計画と実践、ふり返り
- ・全国学力・学習状況調査や、みえスタディ・チェックの実施

3. 学びを支える仲間(学級)づくり

一人ひとりの居場所があり、子どもたちが安心して自分を出せる学級・学校づくりが本研修を進めていくにあたって大変重要になってくる。そこで、こどもとこどものつながりを深める「仲間づくり」を進めるために、まずは教師とこどもがつながっていく。教師がこどもの思いや願いに寄り添い、いかに共感できるかが鍵となり、教師の人権感覚が問われるところである。各学級にきちんと寄り添い、最後まで付き合うことのできる関係づくりが何より大切であると考え。そして協働して学ぶことにより、自らの考えを改めたり、広めたりしながら学びを深めていく。

V 学校教育全体で取り組む活動

「見つめる子」を設定し、その子を中心とした仲間づくりを進めていく。

また、分からないことを「わからない」と言えるこどもやちがいを大切にできるこどもを育て、それを臆せず言える関係をつくりたい。

【非認知能力を育む活動について】

- ・「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」の4要素について、授業、行事、日常生活等あらゆる教育活動の場面で取り組む。
- ・あらゆる活動において非認知能力について教師が意識を持ち、児童と共有して取り組む。
- ・新学期当初の学活でこどもたちに示し、個人の目標や学級目標づくりに反映させる。
- ・4年生以上でアンケートを実施し、教師による働きかけとこどもたちへのフィードバックを行う。
- ・ポジティブメッセージカードなどに取り組み、実践を積極的に校内で共有する。

【関わり合う活動】

- ・異学年交流活動(縦割り班活動)を通して、主体的に関わりをもとうとする力を養う。
- ・委員会やクラブ活動など集団の一員としてよりよい学校生活づくりに積極的に参画し、自主的・実践的な態度を育てる。また、活動報告など集会で発表することを目標にして取り組み、達成感を味わわせることで、関わり合う力を高める。
- ・年1回、人権集会を実施し、中学校区の取り組みを共通理解すると共に、日頃の学級や学校で見られる課題に向き合い、どうすればよりよい学校生活が送れるかについて考える機会をもつ。
- ・外部講師やゲストティーチャー等を招いた様々な体験学習を取り入れ、興味関心・意欲を高めキャリア教育につなげる。

【言葉を育む活動について】

- ・全校で、朝の会のスピーチ活動などに取り組み、スピーチの基礎的なスキルを高める。
- ・作文や短日記やふりかえりカードなどを書かせることで、思いを言葉で表す力を高める。

【読書活動の充実について】

- ・朝読タイムを設け、読書量や語彙力を増やす。
- ・図書委員会を中心に、各学期1回程度図書館まつりを行い、読書ビンゴ・お話クイズラリー・チャレンジ読書などさまざまなジャンルの本に触れるきっかけをつくる。
- ・巡回指導員や読書週間に合わせた教師によるブックトークや読み聞かせを行ったり、高学年は、週1回「図書の日」を設けたりして、読書意欲を高める。

- ・共通学習教材と関連させて、並行読書に取り組む。

VI 年間研修計画

	時期	取 組 内 容
一 学 期	4/17(金)	<みえスタディ・チェック(4・5年)実施>
	4/20(月)	【第1回全体研修会】 ・今年度の方向性、具体的方策
	4/23(木)	<学調(6年)実施>
	5/11(月)	【第2回全体研修会】 ・6年授業研究(事前)
	5/27(水)	【第3回全体研修会】 ・6年授業研究
	5/28(木)	【特別支援理解教育研修会】(竹原先生)
	6/8(月)	【第4回全体研修会】 ・4年授業研究(事前)
	6/29(月)	【第5回全体研修会】 ・4年授業研究
	7/21(火)	【第6回全体研修会】 ・人権ブラッシュアップ研修 ・特別支援教育(校長先生による発達障がい等通級指導教室での指導について)
	7/28(火)	【ICT利活用研修】10:00～11:30 ・ICT支援員によるAI活用研修 ・佐野、中嶋によるAI活用ミニ研修
	8/3(月)	鈴峰中学校区夏季研修会(AM@鈴峰中、人権講演／分科会) 第1回子どもの生活を語る会(人権研修、PM@深伊沢小)
	8/5(水)	【第7回全体研修会】 学力調査の分析と改善策(PDCA)
二 学 期	10/6(火)	椿小 中学校区人権教育研究推進研究発表
	11/6(金)	鈴峰中 鈴教研委託発表
	11/9(月)	【第8回全体研修会】 ・1年授業研究(事前研)
	11/18(水)	【第9回全体研修会】 ・1年授業研究
	11/19(木)	桜島小 鈴教研委託発表

	12/1(火)	【第10回全体研修会】 ・5年授業研究(事前研)
	12/16(水)	【第11回全体研修会】 ・5年授業研究
三 学 期	1/27(水)	【第12回全体研修会】 ・今年度の研修ふり返し&まとめ ★2月中に紀要完成目指す
	3/3(水)	【第13回全体研修会】 ・第2回子どもの生活を語る会(人権研修)

※1学期…全体研2本+学年部研1本

全体研…6年(中嶋) 5/27(水)

4年(市川) 6/29(月)

学年部研…そよかぜ(加太・小屋)

2学期…全体研2本+学年部研3本

全体研…1年(北川) 11/18(水)

5年(佐野) 12/16(水)

学年部研…2年人権授業(尾崎)、3年(宮崎)、専科(津郷)

3学期…ふり返し&紀要完成